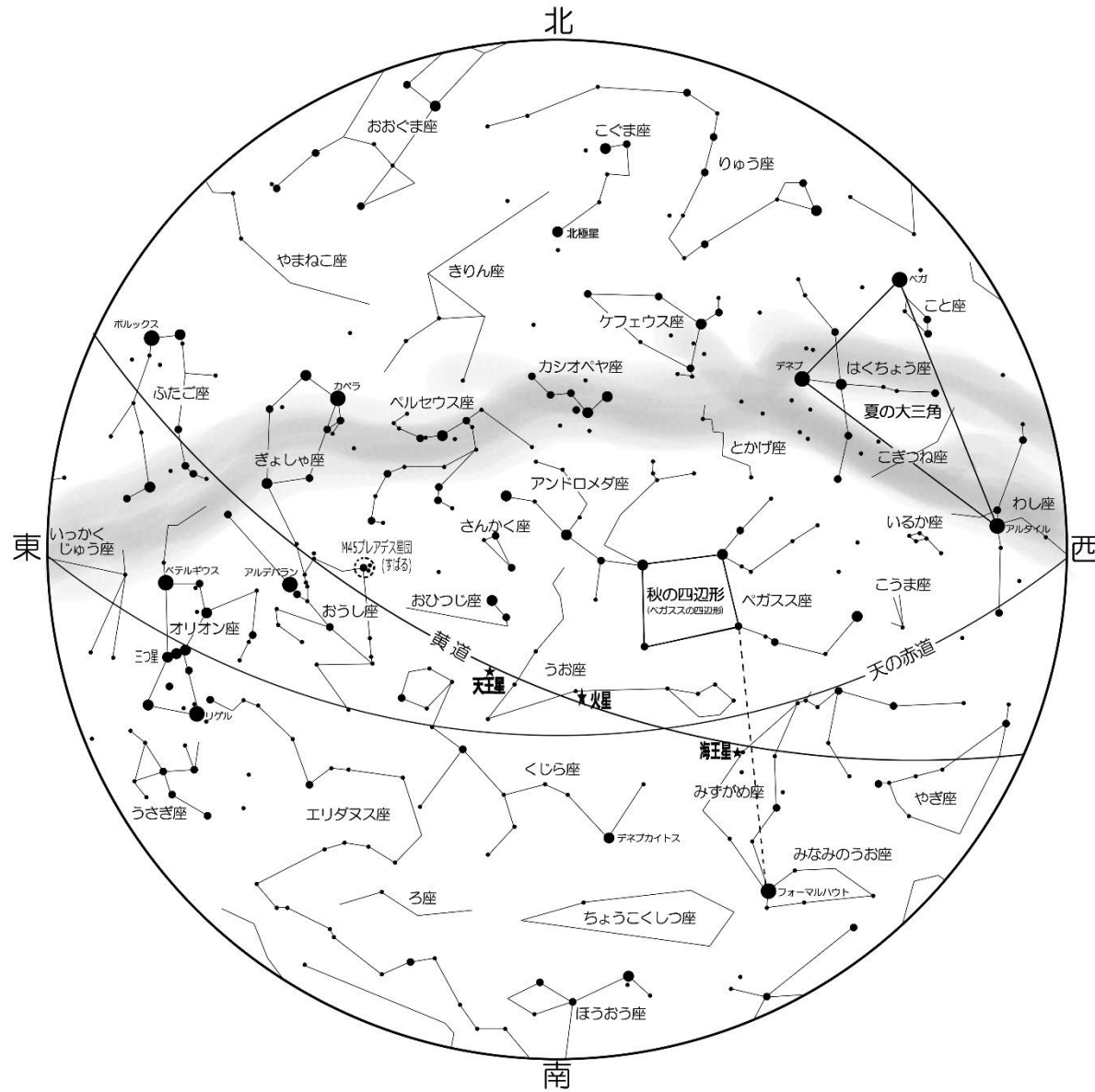


令和2年 12月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



★12月の星空案内

今月の星空では、南から西の空で秋の星座、東の空で冬の星座が見えています。秋の星座探しの案内役は、南西の空で輝く同じくらいの明るさの星4つでつくる四角い星の並びです。これを『秋(ペガサス)の四辺形』と言い、『秋の四辺形』はペガサス座の一部です。『秋の四辺形』の西(右)側の辺を南(下)へのぼしていくと、秋の星座をつくる星の中で唯一の1等星みなみのうお座のフォーマルハルトが見つかります。『秋の四辺形』の左下(南東)の星の近くでは、赤っぽく輝く火星が-0.6等前後の明るさで輝いています。火星の東(左)の方には、火星と共演するかのようにおうし座の1等星アルデバランも赤っぽく輝いています。おうし座には“すばる”という名前で有名な散開星団“プレアデス星団(M45)”があり、条件が良ければ6個から7個の星が集まっているのが分かるでしょう。12月の星空で、見頃を終える秋の星座と赤っぽく輝く星々、見え始めた冬の星座を巡ってみてはいかがでしょうか。

< 現在見える惑星 >

水星(-0.1等前後)	てんびん→いて座付近
金星(-3.9等前後): てんびん→へびつかい座付近	夜明け前、南東の低空でひととき明るく輝く
火星(-0.6等前後)	20時頃、南の空で赤っぽく輝く。
木星(-2.0等前後): いて→やぎ座付近	日没後、南西の低空で明るく輝く。
土星(0.6等前後): いて→やぎ座付近	日没後、南西の低空で輝く。

注目の天文現象 ～接近して輝く木星と土星に注目してみよう～

今年の夏頃から接近して並んでいた木星と土星が、12月22日3時頃に大接近します。しかし、この時間、地平線に沈んでしまった2つの惑星を日本から見ることは出来ないため、2つの惑星が最も近づいた状態で観察できるのは、21日の日没後です。低倍率の望遠鏡を使えば、木星と土星、それらの衛星たちも一緒に見る事が出来るでしょう。木星と土星がこれほど接近するのは珍しく、次に接近するのは20年後の2041年になります。日没30分後、2つの惑星の高度は久留米で18度と高くはないので、南西の方角が開けた場所での観察がお勧めです。その後、2つの惑星は位置が入れ替わり輝くこととなるので、12月は2つの位置関係も継続して観察してみるのもよいでしょう。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
6	日	小惑星探査機「はやぶさ2」が地球に帰還予定	21	月	冬至 (19:02) 木星と土星が接近
8	火	☾ 下弦 (09:37)			
14	月	ふたご座流星群が極大 (9時頃: 条件最良)	22	火	☾ 上弦 (08:41)
15	火	● 新月 (14:07)	30	水	○ 満月 (12:28)